祝辞

「わかばの昼休み」

　みなさん、今日はわかば会の創立記念行事に参加して下さってありがとうございます。
　私は 21 年前、2005 年の 7 月からわかば会の職員として、生活支援員としてくすのき園で働き始めました。その時の私の年齢は 29 歳でした。
そして当時のくすのき園の正式な名前は“社会福祉法人わかば会　知的障害者入所更生施設　新居浜市立くすのき園”でした。

　今日、10 月 4 日は社会福祉法人わかば会が、誕生してから 29 年目の日です。私がわかば会の職員になった時の年齢と一緒です。

　わかば会の職員として、私がわかば会の理念「利用者が主人公」を体で初めて感じたのが、くすのき園で働いて半年くらいたった頃、休みの日に先輩の職員に連れて行ってもらった“わかば共同作業所”を見学した時のことでした。
　“わかば共同作業所”に見学に行った時間帯は昼過ぎでほとんどの人が昼食を食べ終えていましたが、食事をまだ食べていなかった私と先輩に、厨房のスタッフの方が「来るんやったら、言ってくれとったらよかったのに。」と笑顔で言って、その日のお昼ご飯のメニューのチャーハンとスープを出してくれました。陶器の食器に盛られたチャーハンやスープの味はその当時、くすのき園で利用者の皆さんと一緒に私が食べていたくすのき園の給食の味とは違い、温かくて家庭的で優しい味がしました。
そして食事を食べ終えた“わかば共同作業所”のみなさんは仲間とおしゃべりやカラオケをしたり、一人で好きなことをしたり、一人でゆっくりとくつろいだりとそれぞれの素敵な「昼休み」の時間を過ごしていました。
　その後、昼休みを終えて、内職やクリーニングやパン作りの作業に集中して取り組む“わかば共同作業所”のみなさんの姿にも驚きましたが、私の目にはその時の“わかば共同作業所”の昼休みの光景がとても印象的でした。
　その光景は学校時代も社会人になってからも私が大好きな「昼休み」の時間に重なるものがありました。美味しい昼ご飯があって、仲間と一緒に、あるいは一

人で“自由”に過ごせる、みんな大好きな「昼休み」の時間。そんな時間が私が初めて見た“わかば共同作業所”にはありました。

当時のくすのき園では職員が利用者のみなさんのことを見守りと言いながら、監視している時間が長く、利用者のみなさんに自由に過ごしてもらえる時間は限られていたので、“わかば共同作業所”の昼休みの光景はこれが「利用者が主人公」というわかば会の理念を表しているもので、私たちが目指していかなくてはいけないものなんだと思いました。

そして見学の翌日から、“わかば共同作業所”で見た「昼休み」の時間をくすのき園でも作ろうとしましたが、やっぱりすぐには上手くいきませんでした。

それでも少しずつ職員一人ひとりの利用者の皆さんへの意識や関わり方を変えることや、施設内の環境を整えること、そして自分たちも食べたくなるような美味しい給食をだすことで、“わかば共同作業所”での昼休みに近い光景をくすのき園でも見ることができるように変わっていきました。

わかば会の創立記念日の今日のお昼ご飯のメニューはわかば共同作業所、わかば第２作業所、生活介護事業所〖en〗、くすのき園と、わかば会の全ての事業所が同じメニューになっています。

私がわかば会の理念を感じた“わかば会の始まりの場所”である“わかば共同作業所”での昼休みの光景が、今日もわかば会のそれぞれの事業所にあると思います。そしてその光景をこれからも見続けることができるように、昼間だけでなく、くすのき園やグループホームで朝も夜も見られるようにしていかなくてはいけないと思っています。

わかば会に今ある“自由”は努力せずにずっと続いていくものではありません。“自由”とは自分が好きなことだけをすることや、自分が好きなことだけを言い続けられることではありません。自由をはき違えてしまうとまわりの人を傷つけたり、自分自身を傷つけてしまうことがあります。

わかば会に今ある自由を守るために、まわりの人のことを信じて、自分のことも信じて、いろんな人に対する思いやりや助け合いの心を持ってこれからも協力してものごとを進めていきましょう。

今日の創立記念日はわかば会の原点を振り返り思い出して、わかば会をつくり発展させてくれた皆さんに改めて感謝をする日です。
今日この場所に集まってくれた皆さまも、集まれなかった皆さまも
そしてわかば会に長く貢献して下さっている皆さんも、
わかば会に新しく加わって下さったみなさんも、本当にありがとうございます。
「わかば会の皆さん本日は創立 29 周年おめでとうございます。」

2026 年 11 月 4 日
社会福祉法人わかば会　理事
井川　卓